

産業競争力強化対策特別委員会記録

1 会議の日時	令和5年2月28日 開 会 午前 10 時 00 分 閉 会 午前 10 時 35 分	
2 会議の場所	第4委員会室	
3 出席者	委 員	委員長 岩 井 豊太郎 副委員長 田 中 勝 士 委員 伊 藤 正 博 渡 辺 嘉 山 小 川 恒 雄 松 村 多美夫 佐 藤 武 彦 広 瀬 修 恩 田 佳 幸 山 内 房 壽 安 井 忠
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	主 査 柘 植 健 太 主 事 熊 澤 彩 乃	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 提言について 2 その他	

6 議事録（要点筆記）

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、産業競争力強化対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、提言について協議するため開催したものである。

当委員会は、重点調査項目に基づき、テーマを絞り込んだうえで調査検討を行い、当初は令和2年度までの2年間を目途に一定の提言を行うことを目指してきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、視察をはじめとした調査が十分にできない状況を踏まえ、調査期間を4年程度に延長した。

本日は、これまでの4年間の調査結果を踏まえ、提言としてとりまとめたい。なお、本会議における委員長報告は、提言の内容を抜粋して行う。

本日協議する提言案については、あらかじめ配付したとおりであるが、この提言案は令和3年3月に取りまとめた中間報告をもとに、その後の視察や参考人招致などの委員会での活動内容を追加して作成したものである。

提言案について、意見はないか。

（意見なし）

○岩井豊太郎委員長

意見もないようなので、案のとおり提言を決定したいが異議はないか。

（異議なし）

○岩井豊太郎委員長

異議がないようなので、案のとおりとする。

なお、今回の提言は、委員会の調査結果に基づくものであることから、本会議における委員長報告については、提言の内容を抜粋して行い、その文案については、正副委員長に一任いただきたいが、異議はないか。

（異議なし）

○岩井豊太郎委員長

異議がないようなので、そのようにする。

なお、本日審議した提言については、議会閉会后、知事に対して手交するので承知願う。

○岩井豊太郎委員長

議題は以上であるが、当委員会の4年間の活動を振り返り、委員から感想を一言ずつお願いしたい。

○安井忠委員

伝統工芸から最新の技術まで調査させていただいたが、様々な分野で今後も自動化、無人化が進んでいくのではないかと思う。しかし、一方で、機械ではなく人でないと出来ないこともまだまだあるということも感じた。

○山内房壽委員

AIやICTという言葉はよく聞くが、実際に現場でそれを見ることが非常に勉強となった。コロナで活動が制限されたことは残念であったが、この委員会で学んだことを今後は地域に生かしていきたい。

○恩田佳幸委員

全国的にも岐阜県はスタートアップ企業が少ないと聞くので、挑戦を促す支援をしていただきたい。

高校卒業後に就職した方の4割が3年以内に離職するとも聞く。学校内での学習と企業での実習を組み合わせたデュアルシステム等を活用し、地元企業での活躍や本当に働きたいと思える企業とのマッチ

ングにつながる取組を今後も進めていただきたい。

○広瀬修委員

全国でも最先端の技術を持っている企業をサポートするとともに、これに続く企業を育てることも課題。スタートアップの場合は2、3年経過後の資金確保が難しいと聞くので、支援いただきたい。

岐阜工業高校はモノづくり人材育成のための設備が整っているが、卒業生が県外に流出しないように、または、仮に流出しても岐阜に戻り活躍してもらえよう取り組むべきと感じた。高校だけではなく、小学校、中学校のうちから、岐阜県での就職につながる取組が必要である。

○佐藤武彦委員

新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により経済が停滞してしましたが、今後、コロナが収束に向かい経済活動も元に戻ると考えられるので、県においては先進事例などを紹介するなど、企業をしっかりとフォローしていただきたい。

○松村多美夫委員

ドローンを実際に現場で見学・体験したところ、様々なことに活用できることがわかり、新しい技術の導入は必要だと感じた。

視察した「ものづくりビジネスセンター大阪」は、中小企業の技術や製品が展示されており、事業者間で互いに技術を磨き合い、新たな製品が生まれる場となっていた。岐阜県でも取り組むべきではないかと感じた。

○小川恒雄委員

新型コロナの感染拡大は、日本の産業に何が不足しているのか、企業が生き残るために今後どうすればよいのかなどを改めて考えさせられる機会となったし、コロナ禍を契機に伸びている企業もある。

また、当委員会でも参考人招致や視察を行った企業は従業員を大切にしていると感じた。どの産業においても人材育成は重要である。これからは行政も民間も一体となって、特に人材育成についてもっと力を入れていくべきである。

○渡辺嘉山委員

当委員会を通じて、執行部と一緒に現場の視察をすることが非常に大切であることを改めて感じた。

また、成長している企業は、人を大切にしているということが共通して言えるのではないかと感じた。

○伊藤正博委員

県内に残って就職、または県外からの就職をいかに増やすかが課題と感じた。

スペースジェットの開発中止やH3ロケットの打ち上げ延期等により、若者の航空宇宙への関心が薄くなるのではとの懸念や、ロケットの設備投資をしていた部品製造業の苦労を聞く。航空宇宙産業の回復に向け、将来を見据えたサポートをしていただきたい。

○田中勝士副委員長

当委員会では、参考人招致を行い、その後現場に視察に行くというやり方が特徴であるが、ぜひこうした活動を来期以降も継続していただきたい。

○岩井豊太郎委員長

この4年間、コロナで十分な調査が出来ない時期もあったが、現場主義を心がけて委員会の運営にあたってきた。

「ものづくりビジネスセンター大阪」のように、行政と企業が結びついて、いろんな相談が出来る仕組みがあるとよいと感じた。

各委員においては、当委員会でも学んだことを地元でフィードバックしているということであるが、執行部においても、当委員会でも調査した内容や委員の意見を今後の施策に反映していただきたい。

○崎浦商工労働部長

成長・雇用戦略の改訂を進めているところであり、この提言を生かしながら、引き続き改訂作業を進

め、来年度以降の県経済の振興に取り組んでいきたい。コロナが収束に向かいつつある中、エネルギー価格や物価高騰が新たな課題となっている。中小企業の状況を丁寧に把握しながら、支援していく。

○岩井豊太郎委員長

以上をもって、本日の委員会を閉会する。

